

○単元のねらい

対象を評価し、多様性の中で、自分の考えを確立する。

○主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

- ・クロームブック
1人1台使用。
- ・デジタル教科書
本文、資料、思考ツール。本文を手軽に読み込むことは、紙媒体よりも適している。間違いを恐れて書き込むことを躊躇する生徒に対しても、効果的な手立てとなる。思考ツールを使った論理的な思考を育てていく一助としたい。
- ・Google ドライブ
共有ドライブ、ドキュメント。クラウド上でデータを編集できる点を生かし「学習プラン」を同時編集しながら組み立てることで、一人一人が学習を自分事としてとらえ、課題達成のためリプランするなど、自己調整を図る一助としたい。

○参考にしてほしいポイント

- ・教師自身が完璧に使いこなせなくても、生徒と共に学ぶ気持ちで取り入れている。
- ・思考ツールや教科書の書き込み、レポート作成は手書きで行うより手軽で時間短縮につながるので、作業や思考の時間が保証できる。
- ・常に進捗状況を確認でき中間発表などの時間を設けなくてよい。

学習の流れ（時間）		主な学習活動とその内容	ICT 機器・教材、コンテンツ等
単元の展開	一次 ①	単元全体を見通し、学習計画を立てる。	・ Google ドライブの共有ドライブ上に作成した「学習プラン」に同時入力。
	二次 ②③	人間と人工知能との関わりについて述べた二つの文章を読み、自分の考えをまとめる。	・ 人工知能について調べ学習をする。 ・ デジタル教科書の切り抜き機能を用いて、2 つの論説文を比較する。 ・ ドキュメントを使用してレポートを書き、同時入力機能を活用して、互いにコメントをする。
	三次 ④～⑦	社会的な事象や社会問題から課題を見つけ、多角的に分析して説得力のある批評文を書く。	・ 論理の展開を工夫した構成となるよう思考ツールを用いて構成プランを考える。
	四次 ⑧～⑪	課題解決のための会議を開き、合意形成に向けて話し合う。	・ 会議の様子の録画等、客観的に自分たちの様子を振り返る機会を作る。

【学習プランシート】

4学習プラン

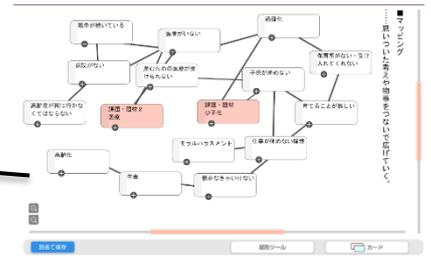
【書く】多角的に分析して書く 目標 → 社会的な事象の中から自分ごととなる題材を選び「批判的な目」を養う
学習活動（予定） 授業のはっきりした説得力のある批評文を書く
プラン ※訂正は赤字
時間 内容や概要
1 ・題材を決める ・観点を決めて分析する
2 構成を考える (時間が余れば書き始める)

教材ごとの学習プランシートをドキュメントで作成し、話し合いでプランを立てながら学習の内容を組み立てている。
クラウド上で行う利点は、学習進度から生徒が調整したプラン内容を、変更後すぐに全員で共有できる点である。



本文をドラッグすると切り抜いてくれるミニ黒板機能

教科書で学習する思考ツールが実際に使える



○児童生徒の反応

思考ツールに関しては、マッピングのほか、ベン図やチャート、グルーピングなど様々なひな形がそろっているので、生徒一人一人が、ツールの特性を生かし、活用のねらいにそって選んで使えるところが良いようであった。

話し合いの様子を自分たちで見ながら振り返ることには照れがあるようである。

活用方法

評価の観点	思考・判断・表現
具体的変容	それぞれの学習活動でわかったり身に付けたりした知識や考え方が、クラウド上ですぐに探せる点は、紙のノートを使用するより手軽で、学びのつながりを実感することができていた。

○実践の手応え

ICT機器を使用することで、アイデアを出したり、考えを広げ深めたりといった場面、また、話し合いの場面で時間の短縮になったり、考えの共有が容易になったりといった利点がある。これまでは模造紙や付箋、ワークシートを使って行っていた話し合い活動や個人での思考の時間の準備も教師側としても非常に簡単にできる。生徒にとっては書き出したり、書き写したりといったことに時間をかけず、思考の時間を保証することの大切さが改めて分かった。

話し合いの様子を録画し、生徒たちに自己評価をさせる取組は、録画された自分を冷静に見ることが難しい生徒もいるなど、自分の姿を客観的に判断するためには回数を重ね慣れることが必要であることが分かった。しかし、話している内容等を振り返ることは、生徒自身の課題の把握につながるため、効果的な活用となっているので、今後も取り入れていきたい。